Society of Japan Science Teaching

C 03

自由研究におけるウェブ検索の利用
教科書の記載と実態の比較

○佐藤綾[A]，栗原淳一[A]
群馬大学 教育学部[A]

Utilization of Web Search in Research Program: Comparison Between Text Books and Reality of Use

Aya SATO, Jun-ichi KURIHARA
Faculty of Education, Gunma University

Keywords: 自由研究，小・中学校，インターネット，検索ワード解析
Research program, Elementary and lower secondary school, Internet, Analysis of web search

目　的

安藤・海野（2008）は、自由研究は現行の学習指導要領では触れられていないが、一般に夏休みの宿題として定着していると述べている。現在、ICT 教育の充実により、子どもの多くは調べ物の際にインターネットを利用している。そこで本研究では、自由研究におけるインターネットの利用について、教える側の意図と子どもの実態を調査した。これらの結果から、子どもが自由研究のどの過程で情報を必要としているかを明らかにし、指導の際、どのような支援が必要かを検討する。

方　法

現在使用されている小学校および中学校理科の教科書を精査し、自由研究に関する記載があった場合、インターネットの利用に関して、研究のどの部分で利用するよう紹介されているかを調べた。また、Google AdWords: Keyword Planner というツールを利用し、2014 年 4 月から 2015 年 3 月までの間に、「自由研究」という用語が他のどういった用語と一緒に検索されていたか、また、それらの組み合わせでの検索数がひと月あたり何回あったかを調査した。

結　果

教科書に記載されている自由研究でのインターネット利用については、主に「計画を立てるための情報を集める際に」、「調査を実施する時の調べものに」利用する例が紹介されていた。インターネットでの検索の傾向を解析した結果、「自由研究」という単語を含んだインターネット検索は 1 年間で約 400 万回行われていた。「自由研究」という単語と一緒に検索されていた言葉について、類似しているもの同士をまとめた結果、それぞれの検索数は図 1 のようであった。

考　察

検索ワード分析の結果、子どもは何らかの形で研究のテーマそのものを探していることが分かった。これは、子どもが自由研究を進める上で、研究のテーマ設定に関する情報を必要としていることを示している。このことは、萩原ら（1999）の「子どもが自ら探究の課題を設定する場合、教師の支援がかなり必要である」という報告と一致する。しかし、研究のテーマを探すというインターネットの利用法は、いずれの教科書でも触れられておらず、本研究から明らかとなったインターネットの利用実態は、子どもが自身の疑問を探究するという自由研究の目的から逸脱している可能性を指摘する。

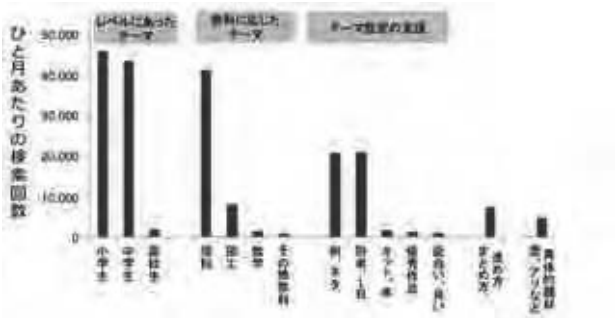

図１　自由研究と一緒に検索されていた単語

まとめ

自由研究において、子どもはインターネットを利用して「研究のテーマ」を探している傾向が明らかとなった。このことは、自由研究の指導においては、テーマ設定について、子どもが自身で疑問を見つけるための支援が必要であるとともに、自由研究の目的を事前に子どもに指導することの重要性を示唆するものである。

参考文献

安藤秀俊・海野桃子. (2008). 理科の自由研究の系譜と附属小学校における児童の意識『福岡教育大学紀要』57(4), 135-140
萩原武士・中山明子・岸下裕之・中山大嘉俊. (1998). 理科学習における発展課題（Ⅱ）. 『大阪教育大学紀要』48(1), 59-63.

NII-Electronic Library Service